

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

1 前回 (図書館見学) について補足

- 本棚を眺めることの重要性
- 分類番号・請求記号・件名 → 図書館検索 (OPAC) 結果の読みかた
- 図書館講習会、学生選書など
- 図書館サイト <<http://tul.library.tohoku.ac.jp/>> の「お知らせ」

2 文献・資料の探しかた

本を探す

- 書店・図書館
- CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>

雑誌論文を探す

- CiNii Article: <http://ci.nii.ac.jp>
- Google Scholar: <http://scholar.google.co.jp>

そのほか、各専門領域のデータベースやリンク集など:

- <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>
- <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>
- <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>

そのほか、芋づる式、人に聞く、マスメディア、インターネットの利用

3 口頭発表

東北大学や仙台周辺では、さまざまな学術的な催しが行われている。学術的な口頭発表に触れておくことは、学術的な表現方法を習得するという観点からも重要である。必ずしも自分の研究対象でなくとも、様々な分野の学会・研究会・ワークショップ・講演会などに参加してみるとよい：

- 東北大学のニュース: <http://www.tohoku.ac.jp>
- 文学部のニュース: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>
- はぎのすけ (図書館 Twitter アカウント) <http://twitter.com/hagi_no_suke>
- 田中によるブックマーク: <http://b.hatena.ne.jp/remcat/東北大学>

4 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイディアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい(月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

5 KJ法

教科書 pp. 110-116

- マインドマップとはちがい、こまかいところからつくりはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

6 類似の手法

- 問いと答えのリスト
- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ
- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる

7 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

文献

月刊ビジネスアスキー編集部(2010)『本当に頭がよくなるマインドマップ“かき方”超入門』アスキー・メディアワークス。